

京町家保全・再生の事例

家族5人の夢がつまった家

「1邸」(中京区)

にぎやかな中京区の町並みのうつろいを、130年前から見守ってきた町家。ご近所にはレストランやお店、ガレージが多くなり、今では木造の町家は数えるほどしか見あたりません。行き交う人でにぎわうこの町中で、京都の暮らしの雰囲気伝える貴重な存在です。

ずっと関東で暮らしてきたIさんご夫婦と3人の娘さんでしたが、6年まえにご主人が大阪へ転勤となったことを機に、京都のお爺様が所有していた町家を改修して暮らすことにされました。「私の父以前は京都出身。それなら自分のルーツは京都だと思い、京都に腰をすえたいと思っていました」とIさん。

改修前まで10年近く住人が不在の状態だったこの町家、改修して住めるようになるのかとても不安だったそうです。Iさんは、まずインターネットで情報収集をされ、町家に精通する工務店と出会い、京町家改修への第一歩を踏み出すことができたそうです。

また、同時にセンターの「京町家なんでも相談」も活用し、専門家による現地相談を受けることで、改修して住めるようになるかどうか、希望する間取りに変更することができるかどうか、の2点の不安を解消されました。

「どんな家にしようか?」。Iさんご家族の家族会議は何度も開かれ、みんなの夢が集まってきました。「会話のはずむキッチンにしたいわ」、「お庭を眺めながらお風呂に入りたい!」、「自然素材で気持ちの落ち着く部屋にしたいなあ」。どんどん出てくる家族5人分の夢をもちより、工務店と昨年1月から月1回のペースでじっくりと相談を重ねて夢をかたちにし、納得のいく改修工事につながられました。「工務店さんが私たちの分からないこともきちんと教えてくださり、丁寧に相談にのってくださったから、ここまで納得のいく改修をすることができました」、とおっしゃるとおり、間取りの計画だけでなく、窓の位置やかたち、建具の色など、きめ細かなところにもご家族の想いが反映されました。

外観はほとんど変えず、町家の伝統的なデザインが

そのまま活かされています。通り庭は火袋を活かした吹き抜けのあるキッチンとなり、奥に進むとお庭を見ながら入れる浴室やトイレにつながります。通り庭に面して空間を広く使えるのびのびとした和室1室を含む3室、2階の和室はフローリングの子ども部屋とご夫婦の寝室に生まれ変わり、1階のキッチンと吹き抜けでゆるやかにつながった空間となりました。そのほか、暮らしやすいように床暖房を入れる、屋根裏に収納スペースをつくる、屋根は部分的にガラスの瓦をつけて光をとり入れる、といった工夫もされています。

「全体を包み込む優しい雰囲気や居心地の良さは自然素材の町家ならではの」と、笑顔のIさん。この日は2階の寝室の壁を、家族5人がコテや刷毛をつけて仕上げました。職人さんに教えてもらいながら初めて触る漆喰の感触に「漆喰の感触がきもちいい。壁を塗るのって、むずかしいけれどおもしろい!」と大盛り上がり。



家族みんなで、壁を仕上げました

「以前はまるでお化け屋敷みたいだったんだよ」と笑顔で家を案内してくれたのは、3人の娘さん。「改修では悩みも多かったけれど、その分できあがりがとても楽しみ。祇園祭や京都の環境を存分に楽しみたいですね」と奥様。「にぎやかになって楽しみだね」と町中での会話もはずみます。

桜の蕾のほころぶこの春から、町家での新しい生活が始まります。お爺様が大切にされてきたこの町家で、Iさんご家族の夢と京都の町がどのような景色を紡いでいくのか、とても楽しみです。(大屋みのり)



室内では最後の仕上げに大忙し



記念に押した家族5人の手形